


令和5年度心のバリアフリー教育グッドプラクティス 応募資料

学 校 名	君津市立周南中学校	
ア 全校児童生徒数	205名 (令和5年5月1日現在)	
イ 実践対象 (学年・人数など)	<p>①-1.2 全校生徒205名</p> <p>② 全校生徒205人、周南小学校6学年。5学年はオンラインで参加</p> <p>③④ 第1学年 62名、第2学年 63名</p> <p>⑤ 第2学年 63名</p> <p>⑥ 第3学年 80名</p>	
ウ 実践内容 (実施時期・概要など) ※画像の挿入可	<p>①-1 全校道徳①【OMOIAI 集会:自分にできる「心のバリアフリー」を考える】7月 -2 SCUP(Sunami Clean Up Project)【学校区地域美化活動】6月、11月</p> <p>② 全校道徳②③【講演会】7月</p> <p>② 事前に三澤拓さんと親交がある川名教子先生を講師に迎え、拓さんの生き方について学んだ</p> <p>③ パラリンピックアルペンスキーヤー日本代表三澤拓さんによる講演会を実施 演目 ~できるかできないかではなく やるかやらないかだ~</p> <p>③ 福祉体験出前授業 7月 【車いす体験】【アイマスク体験】【老人体験】【ユニバーサルデザイン体験】</p> <p>④ 校外学習先でのユニバーサルデザインに触れる体験 9月 【バリアフリー ユニバーサルデザイン調べ】 【学校外研修 2学年:東京散策、1学年東京ディズニーランド体験】</p> <p>⑤ ブラインドマラソン体験 10月 【講話】「障がい者も走る~障がいや介助の方法を学ぶ~」 「なぜブラインドマラソンランナーになったのか」 講師 NPO 法人日本ブラインドマラソン協会 常務理事 安田享平さん</p> <p>⑥ ブラインドサッカー体験 10月 【体験】講師 NPO 法人 日本ブラインドサッカー協会 大山 湧さん 辻 一幸さん</p>  	
実践の普及啓発 (地域等との交流や 広報方法など)	<p>①~④ 学校だよりに活動の様子を掲載 (全校生徒の家庭に配付、ホームページにも掲載)</p> <p>①~⑥ 活動の様子をホームページに掲載</p> <p>①~⑥ 各学年・学級だよりに活動の様子を掲載(各学年・学級の家庭に配付)</p> <p>② 小学校5、6年生が、三澤拓さんについて共に学び、講演を一緒に聞いた。</p>	
オ 実践成果 (児童生徒の変化など)	<p>①について -1では、周南中祭体育の部での活動を振り返り、「仲間からのうれしかった言動」について、異学年の小グループで話し合った。また、「心のバリアフリー」の動画視聴もを行い、「日常生活の中で、自分ならどうするか、何ができるか」について考えた。この取り組みを通して、「他者に対するあたたかい言動」を意識するなど、全校生徒の思いを同じ方向に整える貴重な時間になった。-2は、自分たちが過ごす地区に対して目を向ける絶好の機会と捉え、リーダーを中心とした取り組みが計画できるようになり、生徒たちの自主的な活動として定着してきた。</p> <p>②について 拓さんのまっすぐで負けず嫌いなところ、ポジティブな考え方で前向きに生きている姿に、感銘を受ける生徒ばかりだった。事前に拓さんについて学ぶ時間を持つ機会を得たことで、拓さんを身近に感じる生徒も多かった。「今の自分たちに何ができるか」「これからの自分たちに何ができるのか」を考えるきっかけをもらえたという、前向きな声が多く上がった。全校生徒の思いが、温かい方向の一つになるすてきな機会になった。</p>	

	<p>③について どの内容も、ビデオで見たり説明を聞いたりするよりも実際に体験したことでたくさんの気づきがあった。「視覚障がいの人や車いすを使用する人に出会ったら『何かできることがありますか』と声をかけようと思う」と事後の感想に書く生徒が多数いた。</p> <p>④について バリアフリーやユニバーサルデザインについて調べたり、実際に手に取ってみたりすることで、身近なものにも使われていることがわかった。スロープや多目的トイレなど、障がいのある方や一時的に体の機能が低下している方にも、パークを楽しんでもらえるような工夫がされていることがわかった。障がいのある方の気持ちや大変さを身をもって感じることで、困っている人がいたら助けたいという声が多く上がった。</p> <p>⑤について 1学期に行ったアイマスク体験や今回のブラインドマラソン体験を行ったことで、視覚障がいについての知識が増え、理解を深めたりすることができた。講師の話から、視覚障がいを持っている人に出会ったときに何ができるのか、特に、白杖を持っている人が道路を横断するとき、駅のホームでの移動や乗車するときには、こちらから、「何かできることはありませんか」と声をかけることの大切さを学んだ。視覚障がいについてのニュースを取り上げて話題にする教師が出るなど、実生活でこの知識をどう生かすか、継続した指導にもつながっている。</p> <p>ブラインドマラソンランナーのガイドランナーとしての体験を聞き、健常者と障がい者という関係だけでなく、何かをやり遂げる意志の強さや、今までしたことのないことにも挑戦することの大切さを同時に感じ取った生徒がいた。</p> <p>目隠しをすると、周りのちよとした音に対して過敏になったり、方向感覚が失われたりして、一步一步がとても不安になることを体感した。視覚障がい者に話しかける際、目に見えるものやその状況をより丁寧にわかりやすく言語化して伝えることの大切さだということも学んだ。</p> <p>⑥について 視覚障がいについての理解を深めることができた。視覚障がい者＝全盲ではなく、部分欠損、多少の視力はある弱視、または、先天性のものもあれば、後天性のものもあるなど、新たな知識を学ぶ機会となった。</p> <p>自分が目隠しをしてボールを蹴るという体験を通して、明確な指示を出すことがどれだけわかりやすく、また恐怖心を無くすことにつながるということを学ぶことができた。目隠し状態をお互いに経験したことで、指示の声が大きく具体的なものに成長していった。また、講師の先生方からの動きの説明などにも注意深く聞くようになっていた。</p> <p>生徒の感想では、体験をとおして、周囲の声や音の大切さ、共に生活をしていく絆、仲間からの指示により、安心感を持てることなど、相手の立場、障がい者の立場になった考えを持つことができ、今後の学校生活に生かしていこうとする気持ちを持つことができた。共生社会、【心のバリアフリー】という面では、体験前よりも考えを深めることができた。</p> <p>講師の方から、「もしも自分が視覚障がいとなったとき、少しでも安心して過ごせる君津市だったら良いですね。私も31歳で視覚障がいを患いました。皆さんもいつ障がいに見舞われるかわかりません。障がいを理解し、共に生きていく気持ちを持ってくれると嬉しいです。」という話をされ、生徒たちは共生社会についてしっかりと考えることができていた。</p>
<p>力 次 年 度 の 予 定 (課題や改善策など)</p>	<p>①については、君津市合同生徒会や全校生徒会の主催行事として、リーダーを育成する観点も含めて継続していく。</p> <p>③は④⑤と絡めながら取り組ませたい。特に⑥は、もっと細かな選択肢があるので、今年度の活動と被らないようにしながら、学年の実態に応じて活用していきたい。</p> <p>④日常生活での意識づくりの観点からも、継続したいと考えているが、出かける方面によって出るであろう「やりづらさ」によっては、検討も必要だと考える。</p> <p>②の講演会、⑤⑥の講習会は実施したい思いはあるが、金銭的な面で問題がある。協力があれば、ぜひとも実施したい。</p>
<p>キ 添 付 資 料 (広報資料・Web記事など)</p>	<p>①～⑥の活動の様子をまとめたもの A4 2枚</p>